卒業論文の要旨

論文題目	自然音と音楽からみる音環境の考察
氏名	稲留千紘
メジャー	環境学

（要旨）

地球上は様々な音であふれており、人間も音を聞くことで周囲の環境や様子を感じ取ることができている。その中でも自然音は人間を心地よく感じさせるという。しかし、都市環境では人工音が大半を占めており、騒音問題が発生するように不快に感じられることもある。都市化が進んだ現代社会は、人間にとって心地よい音環境であるとは言えないのではないだろうか。

本研究では、人間が心地よく感じる音環境について明らかにするため、快適・不快な音の分類、人間と自然の環境音に関する相互作用、生活騒音の現状について調査した。

その結果、自然音や音楽には人間を心地よく感じさせる効果があり、人工の機械音は不快に感じられる傾向にあることが分かった。また、騒音問題は人間にとっての問題だけではなく、野生動物の生態系にも影響を及ぼしていたことも分かった。生活騒音の調査では、音楽も聞こえる状況によって不快な音となり、訴訟に発展した事例もいくつかみられた。

人間の聴覚のみで考えると、自然音の静かな音環境が望ましい。しかし、一人キャンプを例に静かな自然環境に身を置けるかのヒアリング調査を大学生対象に行ったところ、消極的な回答が多くみられた。人間は、社会的な生き物であり、たとえ他者が不快に感じる音を出していても、その音で他者の存在や社会を認識し、安心して生活できていると考えられる。自然の静けさは必ずしも快適な音環境とは言えないということが分かった。

一方で、自然環境に身を置けなくとも、近年では自然音の配信サービスといったように自然音への需要が高まりつつある。さらに、音楽にも様々な対象を想起させる表現力があり、ヴィヴァルディの「四季」の楽曲分析をしたところ、自然の様子を様々な奏法で描写していることが分かった。音楽を親しむことは、人々が音を想起し、心地よい音環境を考えるきっかけとなるのではないだろうか、という結論が導き出せた。

今後は、生態系保護という観点での騒音問題への対策、音楽表現の多様性と野生動物への影響といった、音環境の構築のためのさらなる検討が必要だと考えられる。

（指導教員の推薦のコメント）

稲留さんの卒業論文を推薦する理由は、以下の 2 点にあります。

① 音についての環境を多岐にわたって分類していること

② クラシック音楽を対象に教科書などの資料を手がかりに分析を行ったこと

稲留さんが登録していたエコトッププログラムでは、主査のほか、卒業論文・卒業研究に 2 名の副査が指導・評価を行うことになっているため、クラシック音楽について詳しい海津先生と、騒音問題に詳しい耿先生にご依頼をしました。クラシック音楽の分析については、海津先生のご指導の賜です。

環境学は、統合の知であるため、音を巡る環境について多岐にわたる分析をしている当論文は、在学生が卒業論文・卒業研究を進めるにあたって、非常に参考になるものと思い、推薦いたします。